

適応指導教室「すなはま」の体験活動

高砂屋とNHK見学

H30. 2. 27 (火)

<高砂屋見学>

高砂屋にお雛様を見学に出かけました。

江戸時代から平成のお雛様まで38対が飾られていました。どの時代のお雛様も親御さんが子どもの健やかな成長を願って大切にしまっていたことが感じられるものでした。子どもたちは、木目込みや押絵、土で焼かれているものなど様々なお雛様のお顔や衣装を楽しんで見学していました。

高砂屋は江戸時代の豪商の屋敷だったということで、日本家屋や土蔵のつくりの素晴らしさについて、説明を聞きながら梁や柱を見学しました。

近くにある文化財をお雛様を眺めながら、ゆっくりと見ることができました。



<NHK見学>

NHKでは、視聴者に向けて様々な工夫を知るために「いちおしNEWS鳥取」のスタジオ見学をしました。アナウンサーが原稿を読むとき、下を見なくてもよいようにカメラに工夫がされていることを実際に体験しました。お天気コーナーでは、見る人にわかりやすく伝わるようにパネルをタッチすると、お天気マークが表示される様子を体験しました。小林沙貴アナウンサーが、「原稿を読むとき、アクセント辞典で調べて話しています。」と、いつも気を付けていることを話してくれました。

子どもたちは、情報を正確に伝えるために、いろいろな工夫や努力がされていることに気づき、仕事の厳しさを感じていました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

中国電力出前講座とリコーダーを楽しもう

H30. 2. 20 (火)

<中国電力出前講座>

中国電力の方に、身近な電気・エネルギーについて、いろいろな実験や体験を通して学びました。

子どもたちは、電気が暮らしの中でいろいろな形で仕事をしていることをワークシートから見つけたり、発電のメカニズムについて手回し発電機や水力発電の簡易実験機をもとに学んだり、とても分かりやすく興味深かったようです。

また、子どもたちは太陽光エネルギーを振動エネルギーに変えて動く「ぶるぶるモンスター」を作って、実際に動かして楽しみました。

実験や説明を通して、日本のエネルギー資源について考え、家庭での省エネ対策について生活を振り返ることができました。



<リコーダーを楽しもう>

いろいろな種類のリコーダーに触れ、実際に演奏してその音色を楽しみました。

慣れ親しんでいるソプラノ、アルト以外に、クライネ、ソプラニーノ、テナー、バスなど、初めて見る楽器もありましたが、子どもの中には大きなバスリコーダーやテナーリコーダーにチャレンジする子どももあり、みんなで合奏することができました。練習するうちに、すなはま教室のみんなのリコーダーの音が、響き合い、重なり合って、素敵なハーモニーになりました。

楽しい1時間でした。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

新日本海新聞社と市立図書館見学

H30. 2. 14 (水)

新日本海新聞社と市立図書館に見学に出かけました。

＜新日本海新聞社＞

新聞社では、日本海新聞が地域に根差した新聞であること、地域のシェアが70%と日本の地方紙の中でも第3位を誇ることを学びました。実際に新聞を用いて、題字や見出し、リードなど新聞の構成についても説明があり、新聞の情報を効率的に読み取るコツを学ぶことができました。



その後、各部署を見学しました。記者や整理の部署では、仕事内容によって働く時間帯が違ふこと、より新しい記事を載せるために印刷締め切り時間ぎりぎりまで記事を待ち、印刷締め切り時刻が違ふ但馬版と鳥取版では一面の記事が違ふこともあることも分かりました。



＜市立図書館＞

市立図書館では、中学生向けの図書が配架されている場所や、学習コーナーや談話スペースの利用方法を聞き、今後の図書館利用に意欲がわいたようでした。また、貸し出し方法の説明を受けて、各自が図書を借りて帰りました。

新聞社や図書館の見学を通して、各施設ではそれぞれの目的を達成するために働き方は様々で、私たちは人々の努力や創意工夫の上で生活しているということを再認識しました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

国際交流員さんと交流

H30. 2. 6 (火)

鳥取市の国際交流員の姜^{かん}さん（韓国）、烏^うさん（中国）、マリーさん（ドイツ）においていただき交流しました。

始めに、各国のあいさつやお礼の言い方を習いました。



次に、烏さんに教えてもらって、中国料理の肉まんやトマトと卵のスープを作りました。肉まんは小麦粉をこねて生地を作り、発酵させてから中の具を包みました。烏さんが生地を麺棒でのばす見本を見せていただきましたが、その手さばき、その速さと手つきに、子どもたちからは感嘆の声があがっていました。

子どもたちもどんどん上手に作れるようになり満足そうでした。蒸して食べましたが、皮はもちり、具は肉汁たっぷりだととてもおいしかったです。

午後からは、ドイツの国の紹介をもらい、ドイツや韓国の遊びを一緒にしました。普段何気なく使っている「アレルギー」「アルバイト」などの言葉はドイツ語から由来したものであること、車

のマークからドイツ製の輸入車の多いことなど、日本との関わりを知ることができました。遊びでは、矢を投げて壺に入れる「トゥホ」をチームで対戦して楽しみました。

昼食の時、中国には「いただきます」「ごちそうさま」と言って一斉に声を出さず習慣はないということを知り、子どもたちは驚いていました。今はいろいろな国の食べ物も容易に手に入り、外国のことが身近に感じられることも多いですが、このような体験活動を通して、子どもたちが国によって習慣や文化が違うことを、国際交流員の皆さんから学ぶことができた一日でした。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

調理実習（アルザス風野菜煮込み他） H30. 1. 30（火）

フランスのアルザス地方の料理を教えてくださいました。アルザス地方は農業とワイン造りの盛んな地域で、ドイツやスイスとの国境に近い地域です。



主菜の肉料理は、鶏肉やベーコンを炒めて、その中にキャベツや大根、ニンジンなどの野菜を入れ、ワインで煮込むという野菜たっぷりのメニューでした。デザートのリンドを煮込んだコンポートは、薄くそぎ切りにしてバラの花びらに見立てて盛り付けました。サフランライスとカボチャスープも作り、フランス料理を満喫しました。



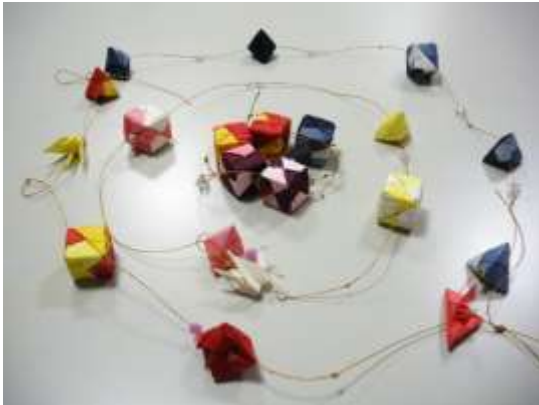
料理に重要なことは、「心こそ大切なれ。『目配り、気配り、心配り』」と教えていただき、子どもたちは今回どんなことをめあてに調理するのか、考えながら取り組みました。料理の味付けや彩り、配膳等、めあてに沿うように向かう子どもたちの姿が見られ、成長を感じました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

因州和紙を使ってつるし飾り作り H30. 1. 23 (火)

ものづくり講座の貞谷隆子先生に教えていただき因州和紙を使ってつるし飾りを作りました。

7. 5センチの和紙を折って、それを組み合わせて立方体などの多面体のユニットを作ります。作ったユニットを5つ紐につないでつるし飾りにしました。



折り方は同じですが和紙の色合いや立体の形の組み合わせで、一本一本雰囲気の違いができました。夕焼け色の飾り、華やかな花々をイメージした飾り、藍色や薄墨色を組み合わせたシックな飾り、中には鶴や兜を折って組み入れた飾りなど、子どもたちの創意工夫があってとても楽しい飾りになりました。

子どもたちは和紙の様々な色合いと柔らかな手触りを楽しみながら折ることができました。また、出来上がった飾りを見て、「色がいいね。」「組み合わせが素敵だ。」などと互いに声を掛け合い満足そうでした。

みんなの作品を集めると、つるし飾りの一本一本に個性が光り、華やかなつるし飾りになりました。

すなはま教室では毎年共同制作を行っています。今年度はこの作品を教育センター内に飾ります。来所された際はぜひご覧ください。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

ジュニア県展鑑賞とわらべ館見学 H30. 1. 16 (火)

博物館にジュニア県展の作品鑑賞に出かけました。子どもたちは、小中学生の絵画や書写、写真作品の素晴らしいところや面白い発想を楽しみながら鑑賞していました。作品を見ていく中に在籍校の友達の名前を見つけて喜んだり、地域ならではの絵画や写真の題材に共感したりしていました。



わらべ館では、昔のおもちゃの展示を見たり、いろいろなおもちゃを使って遊んだり、楽しい時間を過ごしました。

1階の昔の小学校の教室では、各自が席について出席をとる様子を再現するなど、昭和30年代の小学校の雰囲気味わっていました。

1月とはいえ、暖かい日差しに恵まれ、ゆったりと文化・芸術を楽しむ一日になりました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

鳥取大学でものづくり体験

H29. 12. 19 (火)

10月の鳥取大学出前おもしろ科学講座では、すなはま教室を会場にして科学実験をしていただきました。今回は「大学ってどんなところなのかも知りたい」という思いをもって、鳥取大学に行ってきました。大学では、各自が学食で思い思いに注文し、大学生の昼食を体験しました。

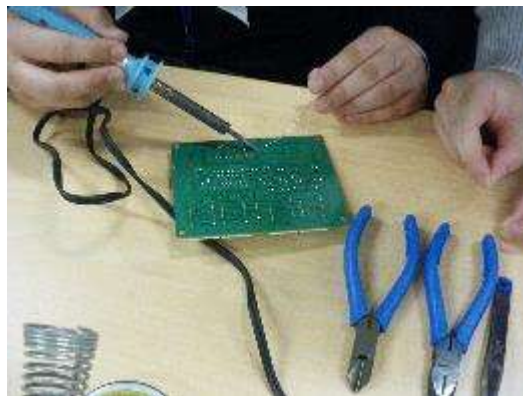


午後は工学部でデジタル時計づくりに挑戦しました。抵抗器やコンデンサ等をハンダごてで基盤に取り付けました。ほとんどの子どもたちがハンダづけは初めてでしたが、手順やコツを教えてもらえると、集中して部品を次々に取り付けていました。最後に、電源を入れて回路を点検してもらい、デジタル表示が光ったときは、「やった！」と大喜びでした。



工学部の学生さんや技術スタッフの皆さんに配線図の見方や部品の取り付け場所を教えてもらい、すなはま教室の子どもたち全員が時計を完成することができました。たくさんの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。

今回の体験で、大学という学びの場や物づくりの基礎を学ぶことができました。これが子どもたちの将来の夢や希望、職業を決めるにあたっての糧となってくれればと思います。



適応指導教室「すなはま」の体験活動

もちつき体験

H29. 12. 12 (火)



ついたおもちは、きな粉もちと農園で作った小豆を煮てぜんざいにして食べました。まだ12月半ばですが、一足早くお正月の味をいただきました。



12月に入り、寒くて雪が舞う日でしたが、もちつきをしました。臼と杵うす きねを使って、2升のおもちを2回つきました。もちつきは保育園のころ以来という子どもたちでしたが、杵きねでつくコツを教えてもらって、パタンパタンといい音が出るようになりました。



もちつきは、準備からついて、丸めること等、人が集まって力を合わせなければできません。今回、センターの先生方に助けをお借りし、通級生たちで協力し合ってもちつきができたことは子どもたちの学びとなったことと思います。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

福部保育園くま組さんとの交流体験 H29. 12. 5 (火)



福部保育園との交流に向けて出し物を準備して行きました。年中のくま組さんに「サザエさん」の手話を披露したり、一緒に手遊び歌をしたりしました。〇×クイズでは、アニメ番組の問題や福部保育園に関する問題を出しました。園児が元気いっぱい回答してく

れて盛り上がりました。最後に、保育園児とすなはま教室の子どもたちが手をつないで一つの輪になり、ダンスを踊りました。園児の小さな手を握って、一緒にダンスを踊りながら「みんなの輪！」と声をあげポーズをとるすなはま教室の通級生たちは、笑顔いっぱい嬉しそうでした。



園児たちの親しみを込めたしぐさや会話に、優しいまなざしで応じていました。寒い日でしたが、心が温かくなった交流でした。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

さじアストロパークの見学

H29. 11. 28 (火)

さじアストロパークで星や宇宙のことを学びました。

館内には、宇宙に関する展示があったり、星が見えやすい調査で鳥取県が日本一になっていること等が説明してあったりしました。子どもたちは展示されているパネルを読みながらクイズに答え、惑星のこと、望遠鏡のこと、日本人の宇宙飛行士のことなど、いろいろなことを知ることができました。



午後からは、プラネタリウムで秋の星座の説明を聞き、ペガサス座の秋の四辺形の見つけ方を学びました。星にまつわるギリシャ神話のお話もあり、興味深く聞きました。また、この日は幸運にも快晴で、巨大望遠鏡でこと座のベガを見ることができました。子どもたちは、昼間でも明るく輝く一等星のベガの強烈な光に驚いていました。

平井知事が、鳥取県は「星取県」と言われますが、館内に展示されている佐治で撮影された星空の写真は本当に満天の星で、素晴らしかったです。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

調理実習（サツマイモご飯他）と保護者参観日 H29. 11. 2

1（火）

保護者の方にも来ていただき、すなはま農園で収穫したサツマイモとダイコンを使った料理をいっしょに作りました。

メニューはサツマイモご飯とダイコンのみそ汁、餃子、大学芋です。餃子は豚ミンチを練り、具を作るところから始めました。互いに協力して材料をみじん切りしたり、上手に具を包んだり、班ごとに30個の餃子を作りました。羽根がついた餃子が焼きあがったときは、そのプロ並みの出来ばえにみんな大喜びでした。サツマイモ入りご飯は、サツマイモの彩りもよく、甘くておいしかったです。



午後は子どもたちが保護者の方にデイハウス「じゅんぷう」の交流会での出し物を披露したり、指導員が体験活動の様子をスライドショーで紹介したりしました。子どもたちが和気あいあいと楽しんで活動している様子を見ていただき、保護者の方々も話が弾んでいたようでした。

子どもたちが、安心して通うことができる居場所となるように今

後も取り組んでいきたいと思えます。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

デイハウス「じゅんぷう」で交流体験

H29. 11. 14

(火)



デイハウス「じゅんぷう」へ交流に行きました。

子どもたちは、交流に向けて出し物を準備して行きました。来所しておられる方に楽しんでもらえるようにと、なじみのある「サザエさん」の歌を手話を交えて披露したり、鳥取の民話「因幡の白うさぎ」の紙人形劇をしたりしました。

子どもたちは緊張していましたが、にこやかな笑顔で「楽しさ」を伝えようと取り組んでいました。最後に、ハンドベルで「ふるさと」を演奏した後、来所の皆さんから大きな拍手をいただきました。子どもたちはほっとすると同時に、嬉しさがこみ上げていたようでした。

交流は40分余りでしたが、自分たちの出し物で皆さんが喜んでくださったことが、子どもたちの達成感につながったようです。人と関わり、つながっていくためには、自分たちの気持ちを表情や態度で伝えることが大事だと学ぶことができました。

温かく見守ってくださったデイハウス「じゅんぷう」の皆さんに心より感謝いたします。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

アトリエ小学校の絵画体験と因幡万葉歴史館の見学 H29. 11. 7 (火)

アトリエ小学校と因幡万葉歴史館へ行きました。



<アトリエ小学校の絵画体験>

国府町のアトリエ小学校で福田典高先生に絵を教してもらいました。はじめ飾られている油絵や水彩画を鑑賞しました。子どもたちは絵葉書サイズのスケッチを手に取り、「この景色は雨滝の布引の滝だね。実際の景色そのままだ。」「これは冬の仁風閣だ

ね。雪の様子が素敵だ。」と、精密な描画や柔らかな色彩に見入っていました。

子どもたちは葉書サイズで絵を描きました。植物や鳥など、描くものを決めてスケッチをしました。そして、豊富な画材の中からイメージに合う画材を使って色付けをしました。出来上がった作品を額に入れると絵が引き立ち、子どもたち自身も出来栄に驚いていました。絵を見せ合って、「そのスケッチいいね。」「優しい色で素敵ね。」と満足そうでした。

集中して取り組み、個々の自信につながった体験でした。



<因幡万葉歴史館の見学>

因幡万葉歴史館では、万葉集の編纂に当たった大伴家持の句を詠んだり、当時の鳥取の様子を学んだりすることができました。今から1200年も昔に、都の文化が鳥取に伝わってきたことに驚きでした。

時の塔に上り、国府町の広々とした田畑や因幡三山を眺め、当時の鳥取の様子に思いを馳せました。

適応指導教室「すなはま」の体験活動

空山ポニー牧場 馬の世話と乗馬体験 H29. 10. 24 (火)



空山ポニー牧場へ行きました。

<馬の世話体験>

ほとんどの子どもが馬に触れるのは初めてでしたが、サポートの方に付いてもらって、まず馬たちとあいさつをしました。それから厩舎の掃除をしました。敷いてあるおがくずの湿った部分をスコップで

取り除いたり、おがくずの中の馬糞をふるいにかけて除いたり、3人一組になって各部屋のコンクリートの底が見えるまで丁寧に掃除をしました。牧場の方が、「ピッカピカになったよ。よく頑張ったね。」と言われると、子どもたちはガッツポーズを返していました。



<乗馬体験>

サポートの方に手綱を引いてもらって、馬場を2周しました。はじめは緊張でこわばっていた顔が、乗っているうちに笑顔になり、そのうち馬の歩みのリズムに体が合うようになり、2周目が終わるころは背筋を伸ばしてはつらつとした顔に変わっていました。乗り終わって、「ありがとう」

と馬に声をかけてなでている様子がとてもほほえましかったです。

昼食後は、馬場に放してある馬に餌やりをしたり、頭をなでたりして帰るまで名残りを惜しんでいました。

<馬とのふれ

あいから>

牧場の方が、「馬へあいさつするときは、自分が危害を加える者でないことを伝えるために馬の鼻先に手を出してにおいを嗅がせる、それから体に触れる。」「馬の体調を知るために厩舎の掃除はとても大切なのだ。」という話をされました。動物とのふれあいに限らず、友達との関係でも信頼関係を築くには、まず自分自身を相手に知ってもらうことから始まることを学びました。



適応指導教室「すなはま」の体験活動

そば打ち体験と宇倍神社見学 H29. 10. 18 (水)



国府町吉野へそば打ち体験に行きました。

子どもたちは、地域と交流し手順を教えただきながら、そば粉をふるいにかけて、卵水を入れてそばをこねていきました。そばを粉にひき、打ち、ゆでる、この工程をできるだけ素早くすることがおいしいそばを作る秘訣だと教えていただきました。

子どもたちは手早く、しかし丁寧においしいそばになるように心を込めて、力強くそばをこねていきました。はじめはぼろぼろとして小さなかたまりだったそばをひとつかたまりにして、指と手のひらに力を入れてこねると硬く締まっていきました。それを麺棒で伸ばして、最後に細く切りました。教えてくださる方に



「手際がいいな。」「うまい、うまい。」とほめていただき頑張りました。取りかかりから1時間余りかかりましたが、細く切ったそばをトレイに並べた時には、「やった!」「うまくできた!」と子どもたちは達成感を感じていました。

このそばをゆでてもらって、地元の野菜を使ったてんぷらと一緒にいただきました。自分たちで作ったそばは、とってもおいしかったです。



午後は、宇倍神社を見学しました。宇倍神社はお札に載ったことがあるということです。そのお札や宝物殿にある宝物を見せていただきました。

因幡一宮ということで、初詣に参拝したことがある子どもたちでしたが、神社の由緒等を聴き、地域の宝、鳥取のよさを再認識しました。